



## ニュージーランドの魅力をたっぷり 1時間に凝縮

～多民族国家のしなやかな強さ～

小春日和のような陽気に恵まれた午前、サロンの集いとして「ニュージーランド（NZ）の魅力」をテーマに講演会を開催しました。13名の皆さまにご参加いただき、遠い異国へ思いをはせる、好奇心満開のひとときとなりました。

講師は、NZ出身のアリスさん。日本語が大変流暢で、外国の方とは思えないほど聞きやすく、ユーモアも満載でした。しかも全身ピンクの装いで会場に入った瞬間、「おお！」と歓声が上がりました。

講演では、NZに関するクイズも出題され、参加者の皆さんが見事に正解される場面もありました。

拍手が起こる和やかなひとときも。NZは約800年前まで人の住まない島だったこと、そこへ海を越えて移り住んだ人々の冒険心など、興味深い歴史のお話が続きました。

続いて食文化へ。「NZには羊がいっぱい！」とのこと。なんとアリスさんのご実家は羊を飼っているそうで、毎日ラム肉を食べていると伺い、思わず「贅沢～！」と声が出てしまいました。日本でよく聞く「ラムのクセ」についても、「NZで食べると臭くないんです。不思議！」と笑顔で話されていました。

### 〈報告書〉

2026  
2/20  
(FRI)

今回の講演を通じて、NZの元首相ジャシнда・アーダーン氏のことを思い出しました。彼女は2017年に37歳で首相に就任し、在任中に出産・育児休暇を取得したことで世界的に注目されたリーダーです。また、温暖化対策として家畜由来の排出ガスへの課金案（いわゆる“burp tax”）が議論されたこともありました。

▼ 一宮市役所 国際交流員  
ヤング・アリス 氏

この政策は残念ながら最終的に見直されましたが、環境問題へ真剣に向き合うNZらしいエピソードとして今でも印象に残っています。

その際に、彼女は「NZは温暖化に貢献しているので、それを理解する人からNZ肉が高くても支持される」と言っていたのです。凄いと思いませんか、皆さん。

多民族国家であるNZでは、「対話」や「相互理解」を大切にする文化が根付いているのだと分かりました。また、さまざまな背景を持つ人々が共に暮らす社会の姿に、深い学びも頂きました。最後に、参加者からは「NZに行った気分になった」との声も聞かれ、会場は笑顔に包まれました。もしNZを訪れる機会があれば、新鮮なラム肉を味わいながら「ウメ～！」と叫んでみたいものです。おあとがよろしいようで。

